

△レリッド錠 [内]

【重要度】★ 【一般製剤名】ロキシシロマイシン (RXM) roxithromycin 【分類】マクロライド系抗生剤

【単位】△150mg/錠

【常用量】1回150mg, 1日2回 [300mg/日]

【用法】1日2回

【透析患者への投与方法】腎不全患者では腎外クリアランスが42%低下する (Lam YW, et al: Clin Pharmacokinet 32: 30-57,1997) ため、尿中未変化体排泄率は低いものの1/2程度に減量 (または投与間隔延長) する必要があるかもしれない (5)

【その他の報告】PD患者では投与間隔を2倍にする (1)

【保存期CKD患者への投与方法】慢性腎不全患者ではAUCが2倍以上に増加するが腎機能との相関を認めず、減量の必要なし (1)

【その他の報告】Ccr>50mL/min: 減量の必要なし, Ccr 10~50mL/min: 150mgを1日1~2回, Ccr<10mL/min: 150mgを1日1回 (5)

【特徴】14員環のエリスロマイシンAの誘導体。従来のマクロライド抗生物質と比較して吸収が良い。胃酸抵抗性に優れかつ代謝を受ける割合が少なく半減期が長い。

【主な副作用・毒性】AST・ALT上昇、好酸球増多、下痢、胃不快感、味覚異常、嗅覚異常、視力障害、霧視など

【吸収】制酸剤やH2ブロッカーで影響を受けない (Boeckh M, et al: Eur J Clin Microbiol Infect Dis 11: 465-8,1992) 食物、牛乳の影響も受けない (Puri SK, et al: J Antimicrob Chemother 20 Suppl B: 89-100,1987) 10%程度腸肝循環する (1) ka=3.53/hr (1)

【tmax】1.5~2hr (1) 2hr (Lassman HB, et al: J Clin Pharmacol 28:141-52,1988)

【代謝】主に肝でCYP3A4によって代謝されるが代謝される割合は少ない (1) 代謝物はモノ、ジメチル体、デスクラディノース体、フリーオキシム体 (1) 腎不全患者では腎外クリアランスが42%低下する (Lam YW, et al: Clin Pharmacokinet 32: 30-57,1997) N-脱メチル化はCYP3A4が関与 (1)

【排泄】尿中未変化体排泄率8%以下 [po, 48hrまで] (1) 10% (Lassman HB, et al: J Clin Pharmacol 28:141-52,1988) 糞便中に53.4%排泄され、代謝物の尿中排泄率はわずか (1)

【CL】48mL/min (Halstenson CE, et al: Antimicrob Agents Chemother 34: 385-9,1990) 【腎不全患者のCL】Ccr 10mL/minの患者で25mL/min (Halstenson CE, et al: Antimicrob Agents Chemother 34: 385-9,1990) 【PD患者のCL】37.3~118.3 mL/min (Lam YW, et al: Clin Pharmacokinet 32: 30-57,1997)

【t1/2】6.25~7.15hr (1) 10~14hr (Lam YW, et al: J Antimicrob Chemother 36:157-63,1995) 12hr (Lassman HB, et al: J Clin Pharmacol 28:141-52,1988) ke=0.12/hr (1) 【透析患者のt1/2】20.6hr (Lam YW, et al: J Antimicrob Chemother 36:157-63,1995) 17.9hr (1)

【蛋白結合率】98% (1)

【Vd】資料なし (1) 計算上およそ200L/man (1)

【MW】837.05

【透析性】蛋白結合率が高いため透析で除去されにくいと思われる (5) 資料なし (1) 【PD】1.0~3.1% (Lam YW, et al: Clin Pharmacokinet 32: 30-57,1997) 【PDクリアランス】0.9~1.8 mL/min (Lam YW, et al: Clin Pharmacokinet 32: 30-57,1997)

【TDMのポイント】TDMの対象にならない【O/W係数】3.0 [1-オクタノール/リン酸buffer, pH7.0] (1)

【相互作用】代謝阻害によりテオフィリンの血中濃度を上昇させ、ワルファリンの抗凝固作用を増強する (1)

【更新日】20180703

※正確な情報を掲載するように努力していますが、その正確性、完全性、適切性についていかなる責任も負わず、いかなる保証もいたしません。本サイトは自己の責任で閲覧・利用することとし、それらを利用した結果、直接または間接的に生じた一切の問題について、当院ではいかなる責任も負わないものとします。最新の情報については各薬剤の添付文書やインタビューフォーム等でご確認ください。

※本サイトに掲載の記事・写真などの無断転載・配信を禁じます。すべての内容は、日本国著作権法並びに国際条約により保護されています。